

街道を歩く

犬山城

天文6年(1537)頃織田信康が木ノ下城から移す。
その子信清城主、信長により追われる。
池田信輝、織田信房、天正12年(1584)
池田信輝、以後城主次々と変わり、
関ヶ原合戦前後の石川光吉、
小笠原吉次のころ近くの兼山城
を解体し、城郭を整備する。
その後平岩親吉、元和3年(1617)
成瀬正成、成瀬氏が明治まで。



木曽街道6

土田～今渡

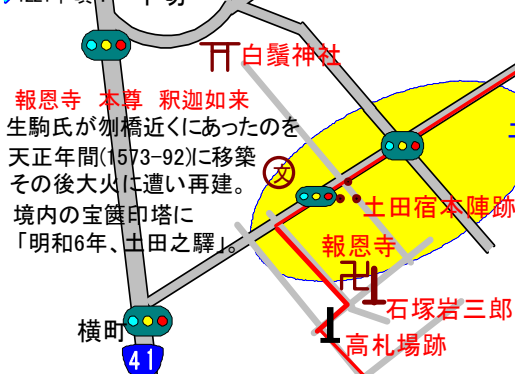
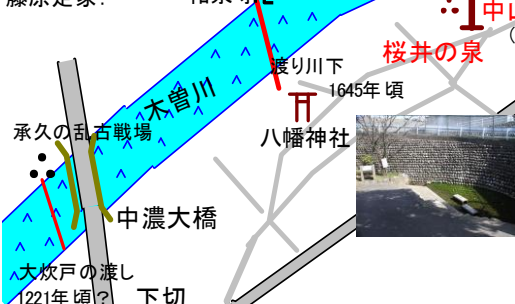
太田の渡し

江戸前期、中山道は土田まで延び渡町には一里塚もあり
木曽川を渡って祐泉寺の東に出ていたようでこの辺を
初期の大田の渡しとされている。街道筋に植えられた桜、
近くの泉が旅人の憩いであった。以後渡しは激流を避け、
順次上流へ、江戸時代半ばには現大田橋下流近くへ、
慶応から昭和の初めは大田橋下流100m近くであった
今も両岸に石畳が残っている。

桜井の泉

吹けば散り 吹かねば水に影うきて
さもおもしろき 桜井の池

藤原定家?



野市場弘法

文正年間(1466)船頭幸助が川の中で光り輝く地蔵を
息子とともに水にもぐって迎え庵を造り信仰した。
眼疾、悪病にこりやく?。

慶応から昭和の初めの渡し場

江戸半ばの渡し場

渡り川

1761-1736年頃?

夜泣き石

文治元年(1185)平知盛が身を投げた後

その妻がこの辺りに身を投げた

月夜の晩に亡霊が現れ鳴き声が

聞こえたという

尾張藩は木曽川管理のため番所を設ける

流木などを止める砦が残る

本陣跡(止善殿跡)

天正10年(1582)信長、武田攻略の途次、

慶長5年(1600)徳川秀忠が関ヶ原合戦の途次、

本陣に泊まる。尾張藩主「義直が泊まって

止善殿と名付ける。

土田宿

宿ができたのはいつごろか定かでないが、東山道、

中山道の初期のころは犬山の内田渡し、善師野、

土田のルートがあったころ中山道の宿場。

元禄七年(1694)伏見宿の新設されると木曽街道の宿

金幣社 白鬚神社

天慶3年(940)平貞盛が平将門の乱の征伐に行く途中

近江国の白鬚大明神お参りしたところ大明神が現われ

美濃国大井の郷に宮を建てよといひ、美濃まで来ると

白狼が案内した、早速神社を建て祈願したところ戦勝し

た。祭神猿田彦大神。

出身は下総国関宿、長崎でビードロ製法を学び原料の珪石が

この地に出ることから定住、庄屋の村瀬吉右衛門の援助

うける。現石塚ガラスの前身。

石塚岩三郎の石柱

高札場跡

報恩寺

土田宿本陣跡

土田宿

白鬚神社

金幣社